

結い YUI

山梨県人権擁護連合会
事務局発行第三号
甲府市北口一丁目二十九
甲府地方方法務局人権擁護課内
助け、助け、助け、助け
を知られる喜び
でありたい。

人権週間の催し多彩に

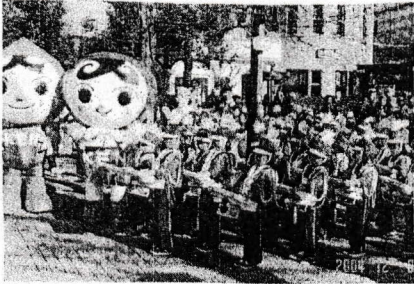
十二月六日、甲府駅前では、にぎやかにパレードが行われた。一日人権擁護委員に委嘱されたヴァンフォーレの選手五名とタレントのさかなクンを中心に、午前十時、駅前で開催式。鼓笛隊をつとめる城北幼稚園の園児たち七十名は、赤と青の揃いの制服を着て集まった。



県連事務局局長 土肥一豊

今、實から甘皮を剥ぎ取ったのが、未だともな蕎麦ができたことがない。一日五組のお客を蕎麦でも頂けぬが、満足度に、実費も程よい。今後とも、蕎麦打ち同様、失敗を乗り越えつつ、人権擁護活動の環境作りに努めたい。

で特設相談と啓発活動を行い、エクランではヴァンフォーレの選手たちのサイン会が行われた。さかなクンは、城北幼稚園で園児たちに人権啓発のプログラムを終えた。この下の各市町村では、この人権週間の間に、早朝の駅頭やスロープでの啓発物品の配布、町内巡回での啓発物品の啓発を行った。この啓発物品のなかの「ひとつとひとつと」の列車時刻表が、ネットが作成、校



正に県連事務局も協力した。

思いを言葉にして

第二十四回中学生人権作文コンクール県大会の表彰式が十二月十一日に、三三〇六編の県内八校で行われた。内容は「いじめ」が多めで、次いで戦争・平和、障害者差別等が続いた。審査委員長の樋口山日編集局長が「体験を通して学び取った教訓をはじめ、本や新

事例研究を中心

開テレビやラジオニュースなどによって感じた思いを、自分の言葉で表現している。示唆に富み、説得力のある作品に感銘を受けた」と講評した。県連の研修会が十一月二十五日、富士河口湖町で開催された。1、3の分科会に分かれて「マルチ商法について」と「いじめによる不登校」の二つの事例について検討・討議。全体会では各分科会で討議された内容を話し合った。マルチ商法については、具体的な対処の仕方を学び、また、「いじめ」について学校の側の問題点、親の側の問題点が指摘され、それらへの対応策が出された。

塩山・小瀬で啓発活動

十月十七日は塩山市の「およつちよい祭り」。晴天に恵まれて会場の塩山中学校には、午前中から人が多く、有効な啓発活動ができた。県連、協議会の啓発物品以外に、塩山市人権擁護委員会、塩山市からのクロスカスの鉢八百個を配布した。また、小瀬では、十一月六日、七日、日、ネットと人権についての活動を約千人が実施した。この活動を意図の高さを窺えた。

児童相談所見学記

去る九月二十九日、甲府市にある山梨県中央児童相談所を事務局員八名で訪ねた。担当者から現状について説明を伺ったあと、施設を見学。二歳から高校生までが入っているという室内は、心に傷を受けた子どもたちが一時的にせよ保護される場所としては、あまりに暗く冷たい場所だった。狭い通路、コンクリートの壁、窓のない閉ざされた学習室などを見て、加害者を収容する施設であるかのような印象を持った。子どもたちはここどこを感じているのだろうか。保護を要する子どもが常にオパール面していること、子どもへの多面的支援、心理的ケア、家庭の再構築などが必要であることなど、難問を抱えている。人権擁護委員も、子どもを守るネットワーカーにぜひ入って欲しい、と担当者は訴えていた。

事務局から

★県連の研修会が二月四日、塩山中央公民館で行われます。
★各協議会の研修会が次のように行われます。ぜひご参加下さい。
甲府 二月二十五日
★十七年度県連総会を五月十九日に予定しています。
★十七年度人権の花、人権作文の取り組みをお願いします。

「ハードル」上映を

十一月二日、県立文学館において長編アニメ映画「ハードル」の試写会があった。県連合会も上映推進委員会に加わっている。この映画は、青木和夫氏作「ハードルー」真実と勇気の間の物語である。いじめに直面した子どもたちが、その周りの大人たちが、自らの内なるハードルを乗り越えて真実に真向かうまでの、それぞれの心の葛藤を描いた、力のこもった映画である。上映推進委員会

委員から一言

情報を通して共通理解を深め、問題意識にまで高めていく。今、「結い」が私たち委員に求めているものはそこにあるのではないだろうか。
「結い」に仲間の息遣いを感じつつ、「今、何が出来るのか」をもう一度考えてみるこの頃である。

ちよつと裏話

「あつ、さかなクンだ！」城北幼稚園に到着した、さかなクンが車から降りたとき、さかなクンに負けじと走り寄ってきたのは、なんとお母様方。その上、写真撮影となると、さかなクンの横を確保しようとする園児を押し退けてしまし、園長先生に怒られる始末。さかなクンもとても一日でした。
編後記
厳寒の季節、新しい年に向かおうと力を溜めたいのです。私たちに必要としている人へ、所へ、常に心と体を向けることができるように、お互い情報を出して行きま

